

80 加速するドライバーの高齢化



先日、「50年後の高齢者比率40%、日本の生産人口は半減(人口問題研究所)」という実にセンセーショナルな発表がありました。50年後は生存しない(?!?)私でさえも、働き手の減少による国の活力や消費の落ち込み、経済の低迷などによる日本の将来を憂へてしまいます。

「高齢化」を、運輸業界にスポットを当てて考えてみたいと思います。若いドライバーが集まらないなど、ドライバー不足が懸念される現状を考察すると、高齢化の波は運輸業界に押し寄せ、ドライバー不足に加速する形で、更なるドライバーの高齢化という安全面からも懸念される問題が浮上します。

懸念しているだけでは解決策は見つかりません。折しも1月20日、私は近畿運輸局主催の自動車事故防止セミナーで、「高

80 加速するドライバーの高齢化

齢職業ドライバーの健康管理」を主題に講演いたしました。その一部を紹介いたしますので、事業者の方のヒントになれば幸いです。

◆健康年齢の若い人を確保する
 暦年齢は平等ですが、健康年齢はそうではありません。この個人差は年齢を重ねるほど差が開き、例えば70歳でも健康年齢では60歳と80歳ほどの差が生じると言われています。つまり健康年齢の若い人を雇用することが、高齢化を目前にした企業における戦略となります。さらに雇用延長や再雇用の際には、「運転に適應する健康状態の維持と健全な労働力の提供」という条件を押さえた契約を取り交わしておくべきでしょう。

◆健康問題は企業責任
 現在は「従業員の健康管理は企業責任」とまで言われています。

《全日本トラック協会・大阪府トラック協会
 SAS検査受託機関》

NPO 法人 ヘルスケアネットワーク
 (OCHIS)

理事 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>

加速する高齢化に備えて、健康な従業員を育て上げる必要に迫られています。重要なことは、高齢者予備軍である若年層・中高齢の教育です。生活習慣病のほとんどは、長い年月をかけてじわじわと迫ってきますので、この年代の人こそ健康教育が生きてきます。

すでに高齢者自身には、加齢を受け入れる意識教育が必要です。内科的なものはもとより、運転に影響する要因として視力、筋力、反射的能力・加齢による疲労・集中力、睡眠の質などの低下があります。しかしベテラン高齢ドライバーほど、機能の低下を認めたくない、知られたくないという意識が強くなり、スピードを上げて、カモフラージュする人も多いようです。管理者はこのデリケートな意識と人格を尊重し、機能の低下に気づき、丁寧な運転を心がけるよう教育しなければなりません。

第10回「両輪会」のご案内

テーマⅡ「安全衛生委員会の上
 手な進め方」▽日時Ⅱ21日午後2
 時から▽会場Ⅱ大阪大学中之島セ
 ンター(大阪市北区)▽会費Ⅱ協
 議会・一般3000円、会員20
 00円。情報交流会・一般、会員
 とも5000円▽問い合わせⅡ電
 話06(69665)3666番

(次回は3月12日号に掲載)